

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山梨県
再委託先	山中湖村

1 事業推進の体制

実践中心校	山中小
協力校	東小、山中湖中
関係機関	山中湖村学校給食センター

2 具体的な取組等について

テーマ1	各教科・領域等における食育に関する指導の充実
評価指標	TT授業の実施状況、外部講師を招いて行った授業の実施状況
効果	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に沿った指導により、食に関する知識が深まりつつある。 TT授業や外部講師を招いて行った授業、栽培活動や調理等の体験活動を通して食に関する興味・関心が高まった。その結果、2学年において朝食の摂取率が高まった。

① 食に関する指導の全体計画の見直し・学年毎の年間指導計画の作成

食に関する指導の全体計画の見直しに加え、新たに学年毎の年間指導計画を作成したことにより、いつ、どこで、何を学ばせるのか明確になり、全教職員が共通理解を持って指導を進めることができた。



② 食育への理解を深め、推進していくための校内研修

- 食育の必要性とその進め方について
武庫川女子大学藤本勇二先生
- 食生活調査から見る児童の実態と食育指導の展開
山梨県教育委員会スポーツ健康課指導主事早川貞子先生

③ 全体計画、年間指導計画に基づく資料や教材の作成

- 月別指導資料の作成
毎月の指導目標に沿った学習指導案と指導資料を作成し、各学年の実態に合わせて担任が指導を行った。
- カルシウム教材、お節料理の掲示物などの作成
年間指導計画を見ながら、必要な教材教具を南都留地区食育推進研究会と忍野山中湖地区協議会食育研究会と連携して作成した。



④ 全体計画、年間指導計画に基づく授業実践

- 教科や学級活動での授業実践
 - 1年生：学級活動「給食おいしいね」
 - 2年生：学級活動「はやねはやおき朝ごはん！」
 - 3年生：国語科「食べ物のひみつを教えます」
 - 4年生：保健「すくすく育て わたしの体」
 - 5年生：社会科「これからの食料生産」
 - 6年生：家庭科「一食分の献立を考えよう
～リトルシェフの献立作り～」
- 総合的な学習の時間や作物の栽培・調理等の食に関わる体験活動
 - 1年生：生活科「ポップコーンパーティ」
 - 4年生：総合的な学習の時間「もろこしまんじゅうを作ろう」
 - 5年生：総合的な学習の時間「お米博士になろう」
 - 6年生：地元のホテルシェフを招いて行った「リトル・シェフやまなし」



5年生社会科
食料生産について
考えました。



リアルティーの
ある教材を作り
ました。

4年生総合的な学習の時間

二分の一成人式で、感謝の気持ちを料理という形に表し、お家の人にもろこしまんじゅうを食べてもらいました。



⑤ 児童会が中心となって行った集会

給食委員会では、「食事マナーを守ろう」をテーマにした集会を実施した。集会後にはチェックカードや、月ごとの目標を決め啓発活動に取り組んだ。保健委員会では、食と歯の健康についての保健集会を実施した。

テーマ2	給食を生きた教材として活用した食育の推進
評価指標	地場産物の使用品目数9品目（H24年度8,9月）→17品目（H25年度8,9月）
効果	給食の時間における食に関する年間指導計画を基に行われる毎日の放送や栄養教諭の巡回指導は、児童の食に対する意識を高め、望ましい食事のとり方の知識や理解が深まった。その結果、食べ物の3つの働きをよく知っていると答えた児童が全校的に増加した。

（取組状況）

① 給食の時間における食に関する年間指導計画の作成

- 給食の時間における食に関する年間指導計画を作成し、栄養教諭や給食委員会が中心となって、計画的に指導を行った。
- 栄養教諭は食事のマナー、手洗い、食品の栄養や旬などについての巡回指導、給食委員会は今日の給食の3色の仲間分けに加え、食品の栄養や旬、行事食などについての一ことコメント、食材を当てるクイズ「わたしはだ〜れ」などの放送を行った。また、よくかんで食べるメニューが出る日には、かみかみ王子の歌を流した。



② 地場産物の学校給食への活用

地場産物を給食に少しずつ取り入れていけるよう計画が立てられた。使用する際は、献立表に下線を引き家庭にも知らせた。



③ 食育キャラクターの活用

学校内で食育キャラクターを作り、名前を募集し、「栄養うまうま博士のマッリーモ」に決定した。マッリーモは子ども達に親しみやすく、食に対する意識の高まりにひと役かっている。



④ 学校給食の活用

全国うまいものめぐりやセレクト給食、子ども達が考案したメニューなどを給食の献立に取り入れ、給食に対する興味関心を高めた。全国うまいもの巡りの取組は、4年生の社会科「都道府県を知ろう」や、5年生社会科「自然を生かした農業」の学習に関連できた。

⑤ 図書室や保健室と連携した食育

図書室に食育コーナーを設置した。また、読書週間には絵本の中に出てくる料理を給食の献立に取り入れた。保健室では、体重測定の間を利用して、低学年は手洗い指導、高学年はかぜに負けない食生活についてミニ保健指導を行った。



⑥ 交流給食の実施

調理員さんと交流給食を行った。調理員がどんな思いで給食を作っているのか考えながら、給食を残さず食べるようになった。

⑦ 食に関する掲示コーナーの充実

校内環境の取組として月別指導目標に沿った掲示物を作成し、毎月掲示を行った。児童が手にとって楽しく遊びながら学習できるような掲示や、保健室の掲示コーナーと関連した掲示など内容も工夫した。掲示物：「給食当番の身支度」「正しい姿勢」「朝ごはん食べよう山」「配膳まなぶくん」「野菜の栄養パズル」「はしの持ち方」等
展示物：「ヤングコーン」「さるなし」「あけび」等



テーマ3	学校・家庭・地域が連携した食育の推進
評価指標	地域の人材の活用 1回（24年度）→3回（25年度）
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・食育講演会や料理教室等の実施により、保護者の食に関する意識が高まった。また、これまでの食生活を親子で話合うなどよい機会となった。 ・地域の人材の活用や食育だよりやホームページの掲載によって、学校における食育の取組の理解と協力を得ることが出来た。

（取組状況）

① 小中連携保健指導部会

小中連携保健指導部会では、「朝食のとり方」と「歯の健康」について連携して指導を行った。「歯の健康」については、3校共通のおたよりを作成し配布した。

② 協力校における授業実践



・東小 1年生学級活動
「なんでもたべてげんきになろう」



・山中湖中 2年生理科
「酵素の働きを知ろう」

③ 食育講演会の開催

5, 6年児童、村内小中学校保護者対象
講師：東海大学体育学部 小澤治夫先生
「子どもの生活習慣と学力・体力・気力との関係について」



④ 給食試食会・食育学習会

今年度は、給食試食会後に初めて親子学習会を行った。栄養列車を使って、赤・黄・緑の仲間を学習し、最後にはその仲間を活用したビンゴゲームを行い、楽しく学ぶことが出来た。帰宅後も給食や食についての話題で盛り上がった家庭もたくさんあった。

⑤ 外部講師を招いての取組

外部講師を招いて6年生「リトル・シェフやまなし」、PTA社会教育部料理教室、料理クラブの調理実習を行った。甲信食糧主催で行った「リトル・シェフやまなし」は、児童の考案したオリジナルメニューを地元のホテルシェフの指導により調理するという取組である。この活動を通して、調理の仕方や衛生に気をつけて調理することの知識が広まったと同時に、食の大切さや素晴らしさを肌で感じ、「将来、シェフやパティシエになりたいな」とあこがれを持つ児童も増えた。



⑥ 学校ホームページの食育コーナーの開設、レシピ集の配布

食育についての取組を広く地域の方々にも知っていただくために、山中小学校のホームページの中に食育コーナーを設けた。また、全24ページのレシピ集は、学校給食の人気料理や村の食生活推進委員がおすすめする料理などを掲載した。



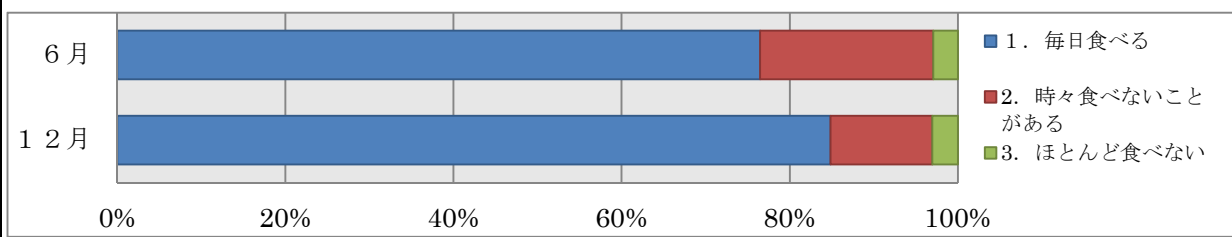
テーマ1～3に共通する取組

評価指標	全体計画、年間指導計画の改善または作成状況、食生活アンケートの結果
効果	教職員間の共通理解の下、給食の時間を中心に教科や特別活動など多岐にわたって指導ができたため、児童の食に対する意識が高まった。

(取組状況)

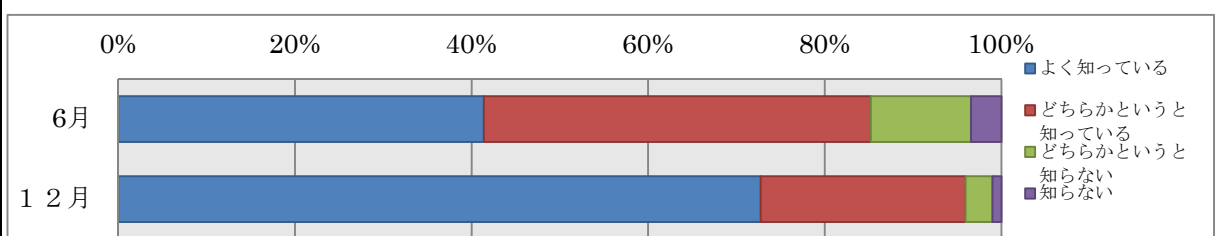
- ① 校内研究に食育研究会を設け、研究推進委員会が中心となって食生活調査の実施や授業実践計画の作成など、全教職員が連携を図りながら食育を推進できた。
- ② 食生活調査を児童に実施し、その結果を授業や講演会など諸活動に活かした。
第1回目と2回目の食生活調査の結果を比較し、1年間の取組の評価ができた。

・朝食の欠食率について（2学年）



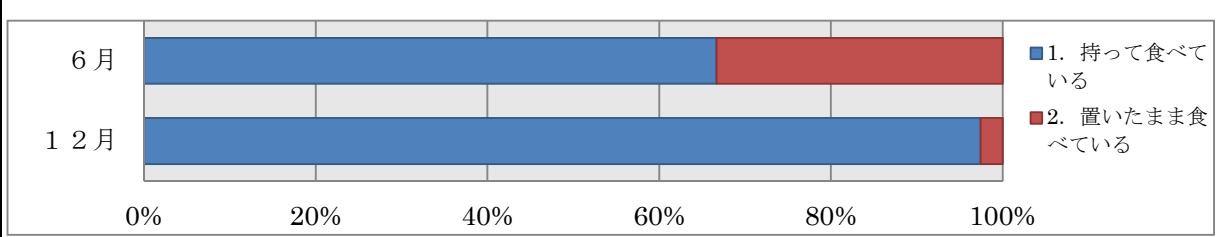
朝食の欠食率の高かった2学年においては、授業参観で「はやねはやおき朝ごはん」の授業を行った成果もあり、「毎日食べる」と答えた児童が8.4%も増加した。しかし、食べない理由については、「おなかがすいていない」「時間がない」と答える児童が変わらず、朝食をとる大切さはわかっているも、生活リズムの乱れが原因で朝食を食べて来られないことがわかった。朝食の指導については、早寝早起きの生活リズムを含めた指導と、家庭での生活習慣をどのように改善していくかについて課題になっている。

・食べ物の3つの働きについて（全校）



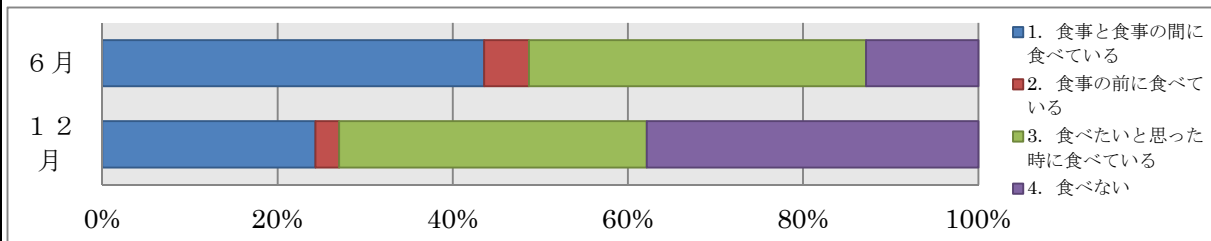
「食べ物には3つの働きがあることを知っていますか」という問いで、6月より12月に行った結果のほうが「よく知っている」と答えた児童が増加した。毎月、配布する指導資料の活用や毎日の給食の放送など日常的な指導が浸透してきた。

・食事マナーについて（5学年）



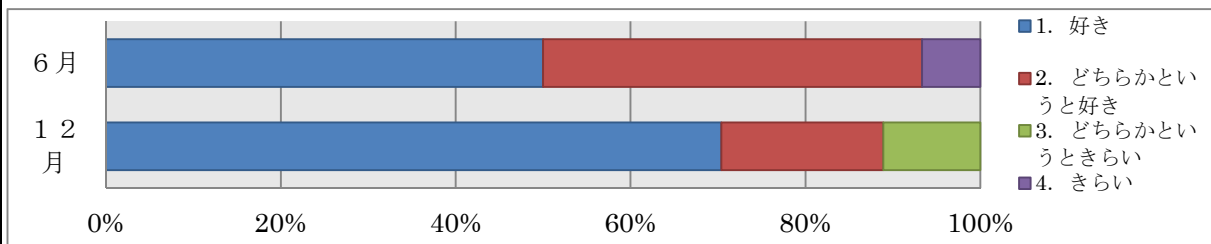
「給食の時、食器を持って食べていますか?」という問いで、「持って食べている」と答えた児童は、全校的に見ても増加した。特に変化の大きかった5学年は、12月の結果ではクラスのほとんどの児童が「食器を持って食べている」と答えた。食事マナーについては、給食委員会が中心となって行った集会、チェック週間、マナー目標など全校で一丸となって取り組み、浸透してきた。

・おやつについて（5学年）



5学年では、「おやつをいつ食べますか」という問いで、「食事と食事の間に食べている」と答えた児童が減った分、「おやつを食べない」と答えた児童が増加した。これらのことから、おやつを減らして、1日3食の食事をしっかりと摂ろうとする児童が増えたと考えられる。また、「おやつを食べる」と答えた児童の中でも、時間や量などに気をつけて食べると答えた児童が増加した。

・行事食や郷土料理について（4学年）



4学年では、「行事食や郷土料理は好きですか」という問いで、12月のほうが「嫌い」と答えた児童が減り、「どちらかという嫌い」が増加した。また、「どちらかというが好き」と答えた児童が減り、「好き」が増加した。行事食や郷土料理が給食の献立に多数取り入れたり、自分たちで実際に作る体験をしたことで、行事食や郷土料理に興味・関心が高まった。

3 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・食生活調査を行い、児童の実態把握に努めた。また、研究や指導に活かすことができた。
- ・作物の栽培や調理等の体験活動を取り入れたことで、児童の興味関心が高まり、児童が主体となって活動することができた。
- ・プロの料理人との交流で、調理の方法や衛生管理大切さを知ると同時に、仕事へのプライドや責任感に触れることができた。
- ・講演会や試食会、食育だよりや学校ホームページなどにより、保護者の食に関する理解が深まった。

4 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・授業の直後は食への意識や関心は高まるが、これを持続させていくことは難しい。給食時間の指導を計画的に行うと共に、学級担任との継続的な連携が必要である。
- ・「早寝早起き朝ご飯」の生活リズムを含めて、家庭での生活習慣の確立という点について課題が残る。
- ・小中学校9年間を通じて系統的な指導がなされるように、学校間や教職員間の連携が必要である。